



天 界 新 知 識

小遊星観測に関する協定

近年、小遊星の新発見が益々増加し、去 1933 年中には總計 394 星が新発見されたほどの盛況であるが、之れに引きかへ、今まで知られてゐる小遊星の観測が大に之れに劣り、従つて軌道不確のものが多いのは遺憾である。之れに關し、獨逸計算局では、さきに A.N. 250, 277 に一般の注意を促したこともあり、又、同局から毎年出版する *Kleine Planeten* には、過去 4 回の對衝時期に観測されなかつたものや、又、1925 年以後に一回も観測されなかつたものには、特に†印を附して、熱心な観測を要求してゐるが、今日までの成績は上述の如く餘り芳しくない。そこで、白國ユクル天文臺の Delporte 氏は今回小遊星観測者間に或る種のプログラム協定が必要であることを提言した。

勿論、此の協定は、小遊星の光度や、赤緯や、各天文臺の天氣模様によつて考慮されるものであつて、

(1) 北半球では、今まで主として Heidelberg, Simeis, Uccle, Yerkes 等の天文臺で上記の†符號の小遊星が観測され、殊に Yerkes では、星の赤緯の如何を問はず、14 級以下のものを出来るだけ多く観測してゐたが、今後此の種の星が増加することを考慮して、光級の最大限度を 14.6 としたい。此の限度以下のものが今 1934 年中には 45 個ある。

†印の小遊星で、光度 13.1—14.5 のものは 1934 年中に約 80 個あるが、此等は Heidelberg と Uccle とが半ばづつ擔當することとし、殊に冬期には $\delta = -10^\circ$ 以北の全部を、又、夏期には $\delta = -15^\circ$ 以北のものを擔當する。13.0 級の小遊星約 20 個は皆 Simeis が擔當するが、Simeis は毎年一月から三月まで天氣が悪いから、此の期間中は Heidelberg と Uccle とが助ける。

(2) 南半球では、Johannesburg で観測するが、此の天文臺の Franklin-Adams カメラは 14.5 級までの撮影が可能であるが、此の範圍で Johannesburg 天文臺が観測し得る†印の小遊星は約 30 個ある。14.5 級以下の星を観測する天文臺は南半球には無い。

A.N. 250 277 にベルリン計算局が提議した點は、各小遊星が各對衝期に一二週間の間隔で少くとも 2 回観測すべきであること、それに運動状況や光度も是非必要であるといふ點であつた。†印の小遊星を確認するためには、寫真一枚の收穫を慾張らず、

目的の星を乾板の中央にねらつて貰ひたい。

尙ほ上記の天文臺の外に、今日まで小遊星觀測を勵んでゐた下記の諸天文臺も出来るだけの觀測を今後もやつて貰ひたいといふことである： Algier, Arcetri, Athens, Babelsberg, Barcelona, Belgrad, Bergedorf, Besançon, Bordeaux, Bukarest. Cambridge (Mass), Düsseldorf, Flagstaff Kasan, Kiev, 神戸西須磨, 神戸大手, Kopenhagen, Krakau, 京都花山, La Plata, Leipzig, Lissabon, Madrid, Milano, Marseille, Moskau, Lick, München, Nice, Padua, Palermo, Paris, Poznan, Pulkowa, Roma, Santiago, Sonneberg, Tacubaya, Tashkent, 東京, Turin Triest, Toulouse, Tucson, Warsaw, Washington, Wiesbaden, Wien, Zöses.

ボ イ エ 星 „1934EA”

去る三月七日夜半、佛領アルジェの Bourzaréah 天文臺で小遊星觀測中、L. Boyer 氏は獅子乙女兩星座の境界線あたりから北西へ急激に逆行中の光度約12級の一星を發見した。星像にコマが見えないので、彗星ではなくて、小遊星らしいと推定され、取り敢へず „1934EA” と假名を附せられた。觀測結果は

三月7.日95	赤經 11h 38m 1	赤緯 +11°35'	(分點1925.0)	光度 12.0	天文臺
9.86	11 36. 7	+12 20	„	„	
9.93	11 36. 6	+12 22	„	„	
13, 20:00:36.1	11 34 10.48	+13 46 40.71 (1934.0)		12.5	Bergedorf
17, 1:54	11 27 34	+15 23 (1855.0)		—	Epsom
11.9	11 35. 1	+13 08 (1925.0)		12.4	Algier
14.9	11 32. 9	+11 14 („)		12.4	„

毎日の運動が非常に速いので注意されてゐるが、Boyer 氏が三月7—11日の觀測から算出した軌道は左記の通りである。[R.I. 943—949]

$M_0 = 33^\circ 03' 02''$	$\varphi = 20^\circ 44' 35''$
$\omega = 302 \quad 56 \quad 46$	$\mu = 0.16127$
$\Omega = 163 \quad 13 \quad 30$	$\log a = 0.534092$
$i = 42 \quad 02 \quad 07$	$g = 9.5$

ナハリヒテン誌第251巻に入る

百餘年の歴史を有する獨逸天文雜誌 Astronomische Nachrichten は今1934年一月2日附の第6001號を以つて第251巻に入つた。此の雜誌は「天界」第11號に記した通り、1821年九月 H. C. Schumacher が創刊し、A. C. Petersen P. A. Hansen, C. A. F. Peters, C. F. W. Peters, A. Krüger, H. Kreutz 等の碩學に續刊せられ、1907年以來は H. Kobold 博士が編輯して今日に及んでゐる。ドイツ國で最古の、又、最も權威ある天文雜誌である。[天界第11號第223—224頁參照]